

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 水車の家
所在地	愛媛県西条市周布494番地1
自己評価作成日	平成23年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・水車と水車小屋を設置しており、本物の水車が回っています。天気の良い日には石鎧連峰が良く見え、散歩や野外での行事ごとの際に活用している。
 ・畑で野菜作りを行い、収穫等が利用者さんの楽しみの一つとなるよう心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙や年賀状を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるようにしている。
 ・近隣に協力医療機関があり、毎週の往診や希望時にはいつでも受診ができる。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場にもなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者と職員の思いを理念として掲げ、それを基に今年度の目標を設定し職員全員が思いを一つにしながらケアを実践している。理念については、振り返りを行い見直しも視野に入れながら、さらに質の高いケアを提供しようとしている。地域の方を事業所の行事に招待したり、敬老会に招待される等、地域との交流に力を入れ、職員全員で地域の方との普段着での付き合いを大切にしている。また、小学校や幼稚園の訪問を受ける等、利用者の楽しみの一つとなっている。開設10年目を迎え、さらに質の高いサービスを提供するよう努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	水車の家
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	野中 善貴
評価完了日	平成 23 年 12 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員皆の利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。共有については毎朝の申し送りの時にスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 代表者と職員の思いである「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」を理念として掲げているが、代表者は見直しを検討している。また、「笑顔で明るく感謝の気持ちをもつ」を今年度の目標として、職員全員が思いをひとつに毎朝復唱し実践するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、近所の幼稚園、お店などと交流がある。地域で開かれる民謡民舞など家族の方から情報収集しながら参加をし、地域の方と交流を行っている。</p> <p>(外部評価) 地域の方を夏祭りに招待したり、小学校の行事や敬老会の招待を受けたり、幼稚園児の訪問による演奏や贈り物の交換をしている。また、地域に在住している家族や職員からの情報により、花の展示会や書道展の観賞に出かけている。職員全員で地域の方との交流を大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) ミニ介護教室や行事などと組み合わせたり、開催する曜日や時間を工夫することで家族の参加を得ている。様々な立場の参加者にホームの事を理解してもらい、地域に情報を発信している。出された意見や要望をもとに、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらい、サービスの質の向上を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらい、相談にのってもらったり、アドバイスをもらう等、市職員との協力関係が構築されている。また、介護相談員も受け入れて意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。	
			(外部評価) 身体拘束や言葉での拘束などの勉強会を行い、職員は拘束をしないケアの重要性を十分理解し実践に活かしている。利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社内での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。職員全員が周知できるように努力している。数か月前まで、成年後見制度制度を利用している方がいた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を作っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的に開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に一度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。 (外部評価) 職員は家族から面会の時に意見や要望を聞くようにしている。感謝の心をもって聞こうとしており、言いやすい雰囲気をつくるよう心がけている。また、家族会を年2回開催しアンケートを実施したり、話し合いを行い事業所への意見や要望を聞き取りサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	<p>(自己評価) 月に一回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させている。</p> <p>(外部評価) 月1回全員参加の会議で意見や要望、気づきやアイデアを聞く機会を設けている。日常の関わりの中でも意見を言いやすい関係を築くことができ、代表者と管理者は新人職員からの斬新な意見を期待している。出された意見は真摯に受け止め運営に反映させるよう努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) リーダー研修の受け入れや相互研修の参加で、同業者と交流する機会を設け意見交換など行っている。良い所は自施設で職員間で報告や相談をし、サービスの質の向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共有している。また、不安が少しでも軽減できるように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちりが理解できるように、側で過ごすように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などでもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえよう参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくりと過ごす時間を持つように支援している。ホームでは利用者の方全員への支援はできていないが、絵手紙を馴染みの方に送付している。馴染みの場所については、お墓参りや初詣、以前によく行っていたお花見の場所などに出かけるようにしている。 (外部評価) 馴染みの理・美容店に行ったり、本屋で買い物をするなど、今までの生活の延長線上で和やかに暮らし、馴染みの関係が途切れないように職員は利用者の生活習慣を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でのなるべく職員が間に入るようにしている。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様あ雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取るよう努力している。 (外部評価) 職員は気づきや利用者の状態を把握するために、事業所独自の様式に整理し、職員全員で話し合いながら支援している。家族の命日に墓参りをしたり、仏壇にお線香をあげに職員と共に帰宅する利用者もいる。職員は利用者の思いを汲み取り寄り添う努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 家族会や面会時に家族の意見を聞き、サービス担当者会議で話し合って介護計画を作成している。また、介護計画を確実に実践するために課題の優先順位を考慮し、多くなり過ぎないように気を付けている。モニタリングの様式をより実用的になるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟に対応するよう努めている。また、家族の方からはリハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の職員の方や、警察や消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行え るようになっている。また、本人さんや家族の方の希 望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っ ている。 (外部評価) ほとんどの利用者は協力病院をかかりつけ医としてお り、週1回の往診にて健康管理を行っている。職員介 助にて専門医を受診する場合は、受診状況の報告書を 家族に渡し利用者の状態を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内に訪問看護が併設しており、状況や気付きは常 に看護師に報告している。看護師が利用者の方と関わ る時間もあり、相談もしている。健康管理や医療面でも 協力してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、 退院後の受け入れ態勢を整えるよう努めている。また、 普段よりケースワーカーとの関わりを持ったり、 医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を 含めての話し合いを持っている。また、終末期に対し ての指針を定めており、説明も十分に行っている。 (家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わな い。) 職員間の意識の確認も行っている。 (外部評価) 看取りに関する指針が作成されており、職員の研修も 行われている。医療機関や訪問看護と24時間緊急連 絡体制が整っている。看護師である代表者が中心とな り、利用者や家族が安心して終末期を迎えられるよう チームで支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時などの対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、2回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定での避難訓練を3回/年実施する予定で、災害対策に備えている。運営推進会議などで、老人会会長に協力の依頼をしている。 (外部評価) 夜間想定での避難訓練や初期消火訓練を行っている。運営推進会議でも話し合いが行われ、地域の方や家族にも避難訓練の様子を見てもらっている。代表者は利用者の生命を守るため、災害対策の重要性を職員に周知している。災害時に事業所を避難場所として提供することも検討している。	災害時の避難等、地域の協力は必要不可欠であるため地域の方にさらに積極的に参加してもらえよう、今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重した関わりをもつように心がけている。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気をつけていくようにしていきたい。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、感謝の気持ちを持って一人ひとりに接している。また、誇りやプライバシーを損ねないように注意しながらケアを行っており、職員の対応等で気がついたことはお互い注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。10時の水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせてるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフがやっているが、一部、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者の方も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方は毎日している。ホールに利用者の方と一緒に書いた献立表を置き、その日のメニューを見て会話したりしている。 (外部評価) 職員の提案でその日の献立をボードに表示する取組みをした結果、利用者と献立の話で盛り上がり、食事を心待ちにしてくれるようになった。利用者の嗜好を把握したり、要望を聞き取るように努めている。また、無理のないよう配慮しながら、準備や片づけを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。	
			(外部評価) 個別に排泄のパターンや習慣を把握し、夜間もトイレで排泄ができるよう支援をしている。職員はプライドを傷つけないようさりげない声かけを心がけ、自立に向けたケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できるだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらっている。	
			(外部評価) 曜日や時間を決めず一人ひとりの生活習慣に合わせて入浴支援が行われている。移動困難な利用者については職員2人での介助をしたり、入浴の苦手な利用者にはタイミングや声かけを工夫するなど、利用者一人ひとりの状態に応じて柔軟な対応を心がけ、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや玄関前のフロアにある椅子など、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 週に1度ホームに、パン販売の業者が車で来られるので、一緒にホーム前駐車場へ行きパンを購入して食べてもらっている。また、季節ごとに花を見に出かけたり、畑で野菜を作り水やりや収穫など分担して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の希望で買い物やお墓参りに出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ外出、外泊出来るよう支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望を把握し、花の展示会や書道展、買物等に外出できるよう支援している。また、利用者の体調や状況を考慮しながら、初詣や花見など全体で外出することもある。日常的にホームの庭を散歩したり、玄関前の水車の側のベンチに座り食事して気分転換を行っている。	近所で馴染みの場所へ出かける等、外出支援に力を入れ利用者に喜ばれているため、今後も一人ひとりの希望を聞き取り、積極的な外出支援が行えるよう取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる人には家族の方と相談の上、お小遣い程度で持ってもらう。職員がお金を管理している人に対しては、一緒に買い物を出かけ、収支をお小遣い帳へ記録している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。ホールにもソファを置いて寛げられるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) 廊下やリビング等共用空間にはカーペットを敷き、利用者が暖かく過ごせるよう配慮されている。談笑する等自由な時間を和やかに過ごせるように木のテーブルや畳のいす、座り心地のよいソファが設置されている。玄関にある掲示板に月の行事予定と行事等での楽しそうな写真が掲示してある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。玄関前フロアに木のテーブルと椅子を設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていた布団や椅子、テーブル等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るように努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) ベッドやダンスやサイドテーブルを備え付けている。フローリングの部屋と畳の部屋があり、利用者の状態や希望により選択できる。使い慣れたテーブルやいすを持ち込んだり、家族が宿泊できるようにベッドをおいている部屋もある。家族との繋がりも大事にしながら居心地よく過ごせるよう配慮がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には花の絵を貼り、目印にしてもらっている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム 水車の家
所在地	愛媛県西条市周布494番地1
自己評価作成日	平成23年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・水車と水車小屋を設置しており、本物の水車が回っています。天気の良い日には石鎚連峰が良く見え、散歩や野外での行事ごとの際に活用している。
 ・畑で野菜作りを行い、収穫等が利用者さんの楽しみの一つとなるよう心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙や年賀状を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるようにしている。
 ・近隣に協力医療機関があり、毎週の往診や希望時にはいつでも受診ができる。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場にもなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者と職員の思いを理念として掲げ、それを基に今年度の目標を設定し職員全員が思いを一つにしながらケアを実践している。理念については、振り返りを行い見直しも視野に入れながら、さらに質の高いケアを提供しようとしている。地域の方を事業所の行事に招待したり、敬老会に招待される等、地域との交流に力を入れ、職員全員で地域の方との普段着での付き合いを大切にしている。また、小学校や幼稚園の訪問を受ける等、利用者の楽しみの一つとなっている。開設10年目を迎え、さらに質の高いサービスを提供するよう努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	水車の家
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	野中 善貴
評価完了日	平成 23 年 12 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員皆の利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。共有については毎朝の申し送りの時にスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 代表者と職員の思いである「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」を理念として掲げているが、代表者は見直しを検討している。また、「笑顔で明るく感謝の気持ちをもつ」を今年度の目標として、職員全員が思いをひとつに毎朝復唱し実践するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、近所の幼稚園、お店などと交流がある。地域で開かれる民謡民舞など家族の方から情報収集しながら参加をし、地域の方と交流を行っている。</p> <p>(外部評価) 地域の方を夏祭りに招待したり、小学校の行事や敬老会の招待を受けたり、幼稚園児の訪問による演奏や贈り物の交換をしている。また、地域に在住している家族や職員からの情報により、花の展示会や書道展の観賞に出かけている。職員全員で地域の方との交流を大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) ミニ介護教室や行事などと組み合わせたり、開催する曜日や時間を工夫することで家族の参加を得ている。様々な立場の参加者にホームの事を理解してもらい、地域に情報を発信している。出された意見や要望をもとに、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらい、サービスの質の向上を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議に出席してもらい、相談にのってもらったり、アドバイスをもらう等、市職員との協力関係が構築されている。また、介護相談員も受け入れて意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。	
			(外部評価) 身体拘束や言葉での拘束などの勉強会を行い、職員は拘束をしないケアの重要性を十分理解し実践に活かしている。利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援できるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社内での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。職員全員が周知できるように努力している。数か月前まで、成年後見制度制度を利用している方がいた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間をとっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的に開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に一度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。	
			(外部評価) 職員は家族から面会の時に意見や要望を聞くようにしている。感謝の心をもって聞こうとしており、言いやすい雰囲気をつくるよう心がけている。また、家族会を年2回開催しアンケートを実施したり、話し合いを行い事業所への意見や要望を聞き取りサービスの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に一回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等 にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員 にて各チーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チ ーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させ ている。 (外部評価) 月1回全員参加の会議で意見や要望、気づきやアイ デアを聞く機会を設けている。日常の関わりの中でも 意見を言いやすい関係を築くことができ、代表者 と管理者は新人職員からの斬新な意見を期待してい る。出された意見は真摯に受け止め運営に反映させ るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその 都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取 得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って 働けるような職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を 行っている。その他、実技の勉強会もしている。社外 での研修には職員の力量に応じて参加し、研修内容は 報告書にて職員全員が周知できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしてい る	(自己評価) リーダー研修の受け入れや相互研修の参加で、同業者 と交流する機会を設け意見交換など行っている。良い 所は自施設で職員間で報告や相談をし、サービスの質 の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取り ながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職 員間で共有している。また、不安が少しでも軽減でき るように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気 持ちが理解できるように、側で過ごすように努めてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などでもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるよう参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくりと過ごす時間を持つように支援している。ホームでは利用者の方全員への支援はできていないが、絵手紙を馴染みの方に送付している。馴染みの場所については、お墓参りや初詣、以前によく行っていたお花見の場所などに出かけるようにしている。 (外部評価) 馴染みの理・美容店に行ったり、本屋で買い物をするなど、今までの生活の延長線上で和やかに暮らし、馴染みの関係が途切れないように職員は利用者の生活習慣を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でのなるべく職員が間に入るようにしている。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様あ雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取るよう努力している。 (外部評価) 職員は気づきや利用者の状態を把握するために、事業所独自の様式に整理し、職員全員で話し合いながら支援している。家族の命日に墓参りをしたり、仏壇にお線香をあげに職員と共に帰宅する利用者もいる。職員は利用者の思いを汲み取り寄り添う努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤枠で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それ ぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の 変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 家族会や面会時に家族の意見を聞き、サービス担当者 会議で話し合って介護計画を作成している。また、介 護計画を確実に実践するために課題の優先順位を考慮 し、多くなり過ぎないように気を付けている。モニタリ ングの様式をより実用的になるよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや 状態の変化は介護計画書の空きスペースに記入するな どして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の 共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い 情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟 に対応するよう努めている。また、家族の方からはリ ハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行ってい る。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染み の関係もできている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 市の職員の方や、警察や消防の方などの協力は得られ ている。また、季節によって利用者の方に合わせて、 身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の 利用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行える ようになっている。また、本人さんや家族の方の希 望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っ ている。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者は協力病院をかかりつけ医としてお り、週1回の往診にて健康管理を行っている。職員介 助にて専門医を受診する場合は、受診状況の報告書を 家族に渡し利用者の状態を知らせている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 同事業所内に訪問看護が併設しており、状況や気付き は常に看護師に報告している。看護師が利用者の方と 関わる時間もあり、相談もしている。健康管理や医療 面でも協力してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、 退院後の受け入れ態勢を整えるよう努めている。ま た、普段よりケースワーカーとの関わりを持ったり、 医療機関の勉強会に参加するなど、関係作りに努めて いる。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を 含めての話し合いを持っている。また、終末期に対 しての指針を定めており、説明も十分に行っている。 (家族の方、主治医の協力がある。医療行為は行わな い。) 職員間の意識の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針が作成されており、職員の研修も 行われている。医療機関や訪問看護と24時間緊急連 絡体制が整っている。看護師である代表者が中心とな り、利用者や家族が安心して終末期を迎えられるよう チームで支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時などの対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、2回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定での避難訓練を3回/年実施する予定で、災害対策に備えている。運営推進会議などで、老人会会長に協力の依頼をしている。 (外部評価) 夜間想定での避難訓練や初期消火訓練を行っている。運営推進会議でも話し合いが行われ、地域の方や家族にも避難訓練の様子を見てもらっている。代表者は利用者の生命を守るため、災害対策の重要性を職員に周知している。災害時に事業所を避難場所として提供することも検討している。	災害時の避難等、地域の協力は必要不可欠であるため地域の方にさらに積極的に参加してもらえよう、今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重した関わりをもつように心がけている。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気をつけていくようにしていきたい。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、感謝の気持ちを持って一人ひとりに接している。また、誇りやプライバシーを損ねないように注意しながらケアを行っており、職員の対応等で気がついたことはお互い注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。10時の水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせてるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフがやっているが、一部、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者の方も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方は毎日している。ホールに利用者の方と一緒に書いた献立表を置き、その日のメニューを見て会話したりしている。 (外部評価) 職員の提案でその日の献立をボードに表示する取組みをした結果、利用者と献立の話で盛り上がり、食事を心待ちにしてくれるようになった。利用者の嗜好を把握したり、要望を聞き取るように努めている。また、無理のないよう配慮しながら、準備や片づけを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 個別に排泄のパターンや習慣を把握し、夜間もトイレで排泄ができるよう支援をしている。職員はプライドを傷つけないようさりげない声かけを心がけ、自立に向けたケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> できるだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらうようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 曜日や時間を決めず一人ひとりの生活習慣に合わせて入浴支援が行われている。移動困難な利用者については職員2人での介助をしたり、入浴の苦手な利用者にはタイミングや声かけを工夫するなど、利用者一人ひとりの状態に応じて柔軟な対応を心がけ、気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや玄関前のフロアにある椅子など、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 週に1度ホームに、パン販売の業者が車で来られるので、一緒にホーム前駐車場へ行きパンを購入して食べてもらっている。また、季節ごとに花を見に出かけたり、畑で野菜を作り水やりや収穫など分担して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の希望で買い物やお墓参りに出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ外出、外泊出来るよう支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの希望を把握し、花の展示会や書道展、買物等に外出できるよう支援している。また、利用者の体調や状況を考慮しながら、初詣や花見など全体で外出することもある。日常的にホームの庭を散歩したり、玄関前の水車の側のベンチに座り食事して気分転換を行っている。	近所で馴染みの場所へ出かける等、外出支援に力を入れ利用者に喜ばれているため、今後も一人ひとりの希望を聞き取り、積極的な外出支援が行えるよう取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる人には家族の方と相談の上、お小遣い程度で持ってもらう。職員がお金を管理している人に対しては、一緒に買い物を出かけ、収支をお小遣い帳へ記録している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。ホールにもソファを置いて寛げられるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) 廊下やリビング等共用空間にはカーペットを敷き、利用者が暖かく過ごせるよう配慮されている。談笑する等自由な時間を和やかに過ごせるように木のテーブルや畳のいす、座り心地のよいソファが設置されている。玄関にある掲示板に月の行事予定と行事等での楽しそうな写真が掲示してある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも畳のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていた布団や椅子、テーブル等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るように努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) ベッドやダンスやサイドテーブルを備え付けている。フローリングの部屋と畳の部屋があり、利用者の状態や希望により選択できる。使い慣れたテーブルやいすを持ち込んだり、家族が宿泊できるようベッドをおいている部屋もある。家族との繋がりも大事にしながら居心地よく過ごせるよう配慮がされている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内は脱衣場以外はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には花の絵を貼り、目印にしてもらっている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	